

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200257		
法人名	社会福祉法人長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム福住 (西ユニット)		
所在地	長岡市福住2丁目1-15		
自己評価作成日	令和2年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「福が住む街づくり」として地域ケアの拠点となるべく開設され、複合型施設として有料老人ホーム、特別養護老人ホームを併設し、常に感謝の気持ち、謙虚な姿勢、笑顔で挨拶をスローガンに取り組んでいる。また平成27年8月には敷地隣に高齢者複合施設サクラレ福住が開設し、地域のニーズをより迅速に収集できるようになり、ニーズに対するアプローチの幅が広がってきた。新型コロナウイルス感染対応前は中心市街地という利便性を活かした外出活動・地域行事でのボウリング大会や新年会への参加など地元に着した事業所を目指し取り組みを行っており、行事の企画運営は併設事業所と合同で開催したり、サークル活動やパワーリハビリ等への参加など、グループホームとしての取り組み以外でも交流を広げることができ積極的に地域・家族との関わりに取り組んでいた。今年度は新しい生活様式になり、買い物や地域に出かけること難しく、いかにご利用者の活動を広げるかが課題であった。法人内の林間施設を利用し、少人数の職員とご利用者だけで出かけて食事を楽しんで頂く事や施設内事業所と合同でスタンブラリーを開催し、敷地内で楽しんで頂くこと、マスク作りや習字・生け花など室内でも楽しめる活動を企画してきた。11年を経過し、もっとご利用者が生き生きと活動したり、ここに居て楽しいと思っただけの活動を模索していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長岡駅に近く、大型スーパー、専門学校があり、多くの人が行き交う街の中心地に立地している。同法人の高齢者福祉複合施設である「桜ガーデンプレイス福住」と隣地の「サクラレ福住」とは緊密に連携し一体的な運営がされ、地域に密着した運営を展開している。併設のこども園の子どもたちと触れ合う活動にも取り組んでいる。

運営母体である社会福祉法人は、「認知症ケアが高齢者介護の原点」とし長年地域の認知症ケアの質の確保に取り組んできており、利用者の生活の継続性を重視した支援を展開している。また緊急時、災害時の対応では法人の全面的なバックアップ体制があり、利用者や家族の安心・安全を支えている。

街の中心地という特性を生かし外出活動や地域住民との共催に取り組んできた。今年度はコロナ禍の状況の下でも関係性の継続を模索し、複合施設にあるパンの売店に買いに行ったり、施設の環境を生かした広い庭と駐車場でスタンブラリーを行い楽しむなど工夫している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支えて頂いている地域の方々や家族に、いつまでも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な気持ちを持って取り組んでいくことを施設理念の一つとして掲げている。また、グループホーム独自の理念にも取り組み、会議やミーティングの中で言葉にし、常に振り返り、意識しながら、生活支援において具現化に努めている。	職員アンケート結果をもとに半年かけて職員の話し合いを重ねて事業所理念を新たに作り上げた。全員で作上げた理念を大切に、スタッフルームに掲示し、ミーティングの際に理念を振り返って、「利用者が楽しい」を具現化するよう努めている。	
2	(2)	グループホーム福住（西ユニット） 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍にて、ボランティアの受け入れや、避難訓練、近所への買い物、学校行事、町内会の催し物（ボウリング大会・忘年会）などの企画が中止となっている。例年行っているSukuralはーとキャンプという介護福祉分野の学生が施設に泊まって介護体験や職員と語り合う企画が開催できない代わりに、学生とオンラインを通じホームのことを知っていただいたりする実践をしている。	利用者は町内会や老人会に加入し地域の一員として活動に参加している。今年度はコロナ禍で活動が制限されている中でもグリーン作戦に参加したり、近隣の小学校にベルマークを届けるなどつながりを保っている。また、福祉分野を学ぶ学生とオンラインでつながり、グループホームから発信するという新たな取り組みを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症の関係で運営推進会議の開催が難しく、地域の方々とも交流を深めることも難しく、認知症ケアの啓発までには至っていない現状がある。しかし、認知症があり在宅で困っているとの相談等には随時対応している。また、法人内のグループホーム部会でも緊急性があるケースは情報の共有を図り、迅速に対応できるように努めている。H24年10月より、地域の在宅支援の視点から、共用型通所介護を開始している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルスの関係で、文書にて報告をさせて頂いている事が多くなっているが、毎月の取り組みやご利用者、職員の状況を報告させて頂いている。11月は感染予防とソーシャルディスタンスを保ちながら運営推進会議を開催し、スライドショーでグループホームの日常や個別の活動を分かりやすく説明する機会を設けたり、面会室の見学をして頂き、ご意見を頂戴している。	利用者家族の代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当者、複合施設長、管理者を構成員として会議を開催している。文書での参加の際はあらかじめ質問書を送付し対応している。11月には会議を開催し、スライドショーで利用者の様子を伝え、感染症対策の具体的な取り組みを報告した。日々変わる感染症対策に対し委員の関心も高く積極的に意見が寄せられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は資料提供型の地域密着型サービスの管理者研修を事業所で行った。また、新型コロナウイルスの関係で、運営推進会議は書面開催が多く、市の職員に参加して頂けない状況ではあるが、昨年度実地指導を受けた際に「疑問や判断しかねる案件についてはいつでも確認してください。」とのお言葉もいただき、分からないことなどその都度連絡を取り合い相談して意見や助言を頂いている。	市から提供されたリスクマネジメント資料を基に事業所で事例検討を行っている。コロナ禍で市担当者の運営推進会議への参加は書面となっているが、電話、メール、ファックスなどの通信手段によって、疑問に思ったことをいつでも相談できる関係性が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際の現場で行っているケアが拘束に当たらないか、言葉で拘束していないかなどを意識してその都度声に出して確認するようにしている。今年度は、新型コロナウイルスの関係で、施設内研修は、資料配布し、その感想などを提出してもらい、拘束となる具体的行為について学ぶ機会を設け、周知している。バルコニーも開放し、行動や生活範囲の拡大に努めている。半期ごとに研修の確認用紙に記載してもらっている。	コロナ禍で集合しての研修を控えており、施設内研修としては年間研修資料を職員に配布し、個人研修カードで感想などを提出してもらい研修委員が確認している。「徘徊センサーマット」の使用など現場での疑問に対しては丁寧に説明し、行動制限につながる行為について確認している。スピーチロックなど利用者の行動を制限することについてもその都度確認し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し実際の現場でどのようなことがそれに当たるのかなど、言葉や精神的な面での虐待がないか、日ごろの業務の中で意識を持ち、実際の場面でも声に出して話し合いの場を持っている。施設内研修では資料配布し、感想等を記載してもらい虐待についての理解、周知に努めている。半期ごとに研修の確認用紙に記載してもらっている。	職員は研修で虐待について学び理解を深めている。日々の支援の中で職員の言葉や態度について注意を払い、お互いに振り返りと確認する機会を持っている。管理者はユニットリーダーと連携し職員の疲労やストレスに気を配り、迅速に対応している。メンタルヘルスチェックを実施し、職員が健康で働きやすい環境作りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が把握しており、研修等により職員への指導を行っている。個々の状況をその都度報告し、必要性について話し合う機会が持てるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し、疑問点などはその都度お聞きしながら理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に必要な物品や近況報告などで連絡する際には意見や要望など会話の中からくみ取るようにしている。また意見箱の設置や運営推進会議での意見の反映、毎月広報誌を発行しご利用者の生活についてお伝えしている。更にご利用者、ご家族へのアンケートを実施し、ご利用者・ご家族へはアンケートのその結果とご意見への改善策等をユニット内に貼りだし、ご家族アンケートの結果については返信している。	利用者家族へのアンケートを年に一度実施している。同一内容のアンケートを職員にも実施し、意見の差異を確認して、会議で話し合っている。内容は利用者が過ごす環境、日常の支援、行事など多岐にわたり、結果と改善策を家族に返信している。利用者からは日々、食事の場など利用者が話しやすい雰囲気の中で要望を聞き、取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議やミーティングに参加し職員の意見を聴く機会を設けている。	管理者と職員は日ごろから直接意見や提案を出しあっている。ケアのため休憩時間の変更の提案について検討したり、感染症対策のための食卓の配置、衝立の設置など随時話し合っている。職員の意見や要望のうち法人として検討が必要な課題は、複合施設長に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、変化や状況に合わせて環境整備・条件の整備を行い、必要な時に相談に乗り、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は新型コロナウイルス為の施設内研修については全員に資料配布し、感想を記入、確認用紙の提出をしてもらっている。新入職員についてはエルダー制度を活用し100日プログラムや職員チェックリストを行うなど進捗に合わせて指導している。リモート研修にてエルダー研修、チームマネジメント研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人内での部会が開催され意見交換の場を設けている。法人内での研修を通じて他事業所との交流があるが、今年度は新型コロナの感染への配慮から少人数で研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接し、希望や困っていることなどをお聞きし、疑問や不安にこたえられるようにしている。また、必ず自宅を訪問しどのような環境で生活されているかを把握するとともに、職員でその情報を共有し、利用者が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接し、今までの生活状況を伺い、施設の状況をお伝えし、家族の要望や不安などをお聞きしている。すぐに言えないことも信頼関係を築きながら言いやすい関係になるように努めている。その時のケアマネジャー、サービス機関などから情報をもらい参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要か、管理者、看護師や相談員など、他職種に相談できる場面を設け対応している。必要なサービスにつなげられるように法人内施設を中心に適宜連絡を取り合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活場面や活動において、一方的ではなく、生活の営みを支援する人として、利用者と一緒にすることを第一に、ご利用者から教えていただいたり、調理や家事、季節や地域の風習に関して利用者が力を発揮できるよう支え合いながら信頼関係を築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を大切なチームケアの一員と考え、今までであれば行事などへ参加を呼びかけただけ一緒に過ごせる時間が持てるようにしていたが、新型コロナの感染対応の為、オンライン通話や状況に合わせた面会などでご家族との交流を図っている。広報誌、HPなどの情報の発信と情報の共有を行い、協力を得ながら一緒に取り組むようにしている。	家族は利用者の生活を支えるための大切なチームの一員であると考え、良好な関係を築いている。コロナ禍では、家族の意見を聞きながら、オンライン面会や窓越しの面会を行ってきた。直接会えない状況でも事業所からの発信を積極的に行い、面会できない家族の心配や気持ちを聞き受け止めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルスの関係で、面会制限があるが、1階での予約面会、オンライン通話でご家族、地域の友人、知人とお話をして頂いている。	入居時に家族にセンター方式のアセスメントシートの記入をお願いし、馴染みの場所や人の情報を収集している。入居後に職員が把握した内容はアセスメントシートに追記し情報を整理している。利用していた美容院などは入居後も利用できるようにしている。今年度はコロナ禍による外出制限があるが、これまでの関係を継続できるよう、オンライン通話を取り入れるなど工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見ながらご利用者同士のコミュニケーションを把握し、適宜職員が仲介に入ったり、寄り添ったりしている。良好な関係が保てるよう、人間関係等の状況に応じて席替え等環境を整えリビングで気持ちよく過ごせるよう支援している。ユニット間の行き来も自由にでき、交流の場が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養、有料老人ホーム、隣の建物の特養に入居された方のご家族とも玄関等でお会いすると最近のご様子や以前のお話をする事ができご相談などにも応じている。また、入院・入居先の施設との情報交換を行い、フォローできるような体制づくりを行っている。特養に住み替えされたご利用者の所にも職員がギター演奏と歌うたいに伺わせて頂き、ご本人はととても喜ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活の中から意向をくみ取るようにしている。希望についてはミーティングで話し合い、できるだけ実現できるように努めている。困難な方には表情や行動からくみ取り、家族等に情報収集し、本人本位の検討に努めている。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、仕草等を観察して思いや意向の把握に努めている。記録に利用者の言葉を記載し、職員間で共有している。利用内容とのコミュニケーションでは、言葉だけでなく、写真や絵を使い利用者が理解しやすいように工夫している。家族からも具体的な希望を可能な限り聞き取り、介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報聴取の他、実際に訪問して家や部屋を見せていただき、どのような生活をされているのかがわかるように、職員に情報提供している。好きな事や趣味などがわかるようにしている。今までの生活が少しでも継続でき安心して過ごせるよう気付きや視点を大切にしている。	入居前に自宅を訪問し、暮らし方や生活歴、環境の把握をしている。介護サービスを利用していた利用者については、居宅のケアマネージャーやサービス事業所から情報を得ている。入居後に得た情報はアセスメントシートに追記し職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を把握した中で、その日の表情や体調などを見て、できることを一緒に行うようにしている。毎日のミーティング時にご利用者の状態を話し合い普段の様子について共有している。体重測定を月1回、必要な方は、毎日行い、入浴前のバイタル測定と体調変化時のバイタル測定を行い身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろのミーティングやカンファレンスを通じて、本人、家族について一人一人が意見を出して情報交換しながらモニタリングし、プラン立案に活かしている。また、連絡時などご家族から随時意見いただき反映している。	初回計画の原案は管理者が作成し、2回目以降の原案は、利用者や家族の暮らしに対する意向やアセスメント情報をまとめ、本人の思いに添って担当職員が作成している。担当者会議には本人や職員にも参加してもらい意見を聞いている。今年度はコロナ禍により家族の参加は控えているが、事前に電話で意見を聞き反映させている。モニタリング評価、見直しを定期的実施して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、毎日のミーティングで気付いたことは随時議題とし情報共有している。検討結果や実践記録についても記録に残し、ケアやモニタリング・ケアプランの見直しに活かしている。不規則勤務のため連絡ノート等を活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は、新型コロナウイルスの関係で、買い物や外出等は、控えていただいているが、他部署と連携した活動への参加、家族の要望や状況に応じた受診付き添いなどその時々に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地区広報誌や市報が届き、地区の情報を得ることができるが、今年度は、新型コロナウイルスの関係で参加できない状況。また、日常の中で地域の美容院や理容室の方より施設に来て頂いて散髪して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する主治医が決まっており、受診日には医師あてに、バイタル表や最近の状況報告を書面にて行っている。特変時も直接医師に連絡し状況説明等を行っている。また、医師に相談していただきたい点等もご家族に直接お伝えし、連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医への受診を継続しており、基本的に家族が受診に対応している。必要に応じ、事業所で受診に対応したり家族と一緒に受診に同行することもある。利用者の体調や情報が確実に伝わるように、書面でかかりつけ医に報告している。通院による感染リスクを恐れて往診を希望する家族があり、往診を依頼したケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等へ伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間帯ともいつでも連絡できる体制がとれている。少しの変化や気づきがあればいつでも相談で助言してもらえる。必要であれば受診等の指示も受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供するとともに、入院後は面会に行き状況確認をしている。看護師やソーシャルワーカーとの連絡を密に取り合うことで、直近の状況把握に努め家族や本人に安心していただけるよう対応し、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針を示し、説明を行っている。状態に応じては各サービス機関と連携し、身体状態に応じた施設や医療機関へ移行することを基本的な対応としている。本人や家族の不安を軽減できるよう早い段階から、本人、家族、主治医と協議し方針の共有に努めている。	契約時に「重度化した場合の対応指針」を説明し、利用者の意向を把握した上で、事業所として、できることとできないことの説明をし理解を得ている。利用者の状態変化に応じて、その都度医師の意見を聞き、本人にとってより安心な生活環境について家族と話し合いを重ねながら、法人内の関係機関と連携し必要な支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、新型コロナウイルスの関係で施設全体での研修は、書面にておこなっており、ご利用者の疾病に応じて緊急時の対応ができるように文書化して周知している。夜間の看護への連絡体制もとれており、宿直の協力の他、併設事業所職員との協力体制がとれるようにしている。	併設施設と合同で、AED取り扱い方法を含めた救急法や、利用者起こりうる転倒や誤嚥などの対応について学んでいる。利用者個々の疾病に応じた個別の対応方法をまとめ、フローチャートを作成している。看護師との夜間の連絡体制が整備されており、職員に周知され、利用者と家族の安心につながっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設事業所との避難訓練や定期的に車いすを使用した階段昇降訓練・連絡網訓練を実施している。スプリンクラー、警報装置等の消防設備設置があり施設や法人全体で協力体制が構築されている。また、非常時の備蓄品についてもグループホーム部会を通じて決定し常備している。	併設施設と合同で、年2回、火災や地震を想定した昼夜の避難訓練を実施している。定期的に垂直避難訓練を行い災害に備えている。消防署による設備の点検や訓練視察も実施している。法人内で協力体制をとり災害対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を傷つけないように配慮した関わりや支援に努めている。言葉使いや対応など、第三者からの目線も意識し職員間で気をつけている。排泄面の支援など、他者に分からないように配慮するようにしている記録等はスタッフルーム室に保管し部外者の目に触れないようになっている。	全職員が倫理や認知症ケア、プライバシー保護について研修で学び理解を深めている。利用者の立場に立って支援し、笑顔で対応するよう努めている。職員間で気づいたことは都度話し合い、支援方法を確認している。居室のドアプレートの設置は利用者や家族の意向を確認して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、必ずご本人にお聞きし、いくつかの選択肢から自己決定できるような話しやすい環境づくりと声かけに努めている。日常の中でどうしたいか、どのような希望があるか聞くように努めており、表現できない方には表情やしぐさなどに注意しながらケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事の場所や時間、入浴や散歩の希望など、利用者のペースに合わせてお聞きしながら提供している。居室での一人の時間も大切に、好きな時間が持てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替えを選ぶ際などは着たい服を選んでもらったり、居室担当を中心に、季節にあった洋服、好みの色やお洒落などを家族や本人に聞くようにしている。髪が伸びていればご家族へ連絡を行い、日々の身だしなみ(ひげや爪切り等)や清潔感が保持できるよう努めている。理・美容室についてもご家族・ご本人の希望に基づいて出来る限り行きつけの所でその方の好まれる髪型にさせていただいているが、今年度は、新型コロナウイルスの関係で、施設の方へ出向いて頂き散髪等をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけ、味見など利用者の力に応じた参加の場面づくりをしている。今年度は、新型コロナウイルスの関係で、利用者と職員と一緒に食事をする事は、控えさせていただいているが、同じメニューの料理を頂くことで、味加減を聞いたり、季節の物やご利用者の好みに合せたメニューを取り入れるようにしている。H26年6月より検食簿を取り入れご利用者の声も毎食お聞きしている。食事に関するアンケートも年1回行っている。	利用者のアレルギーや好き嫌いに配慮し、職員が献立を作成し、管理栄養士が栄養面の確認を行っている。利用者は、野菜の皮むき、下ごしらえ、盛り付け、後片付け、洗い物を職員と一緒にやっている。季節の行事食や、プランターで育てた野菜を献立に取り入れ、食の楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を記録にとり、嗜好や体調、咀嚼や嚥下力に応じた食事形態の変更、内容の工夫を行い、栄養や水分摂取に努めている。管理栄養士からのアドバイスを得ながら、栄養が偏らないように献立を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、一人で出来ない方には、毎食後声かけをし歯磨きやうがいをして頂いている。義歯の方にも残さ物がないか最終チェックを心がけ、定期的に義歯消毒をしている。歯科受診されている方にはその都度医師の助言をもとにケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況、排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を促し、オムツの使用軽減に努め、できる能力や、動作を察してさりげなくサポートしながら、自立支援に努めている。	利用者一人ひとりの水分摂取量や排泄状態を把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄チェック表は利用者の目に触れないよう保管し、同性介助を行うことやさりげなく誘導するなどプライバシーの保護に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、乳製品や食物繊維の多い食事摂取に努めている。毎身体操を取り入れるとともに、散歩や運動の機会の確保に努めている。排便状況を把握し、状況に応じ緩下剤等での対応や腹部のマッサージ等もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に意向を確認して入浴して頂くようにしている。意に沿わない時は時間を置いたり日をずらして対応。最低週2回～希望や必要に応じて午前中入浴や同性介助の対応をしている。現在時間帯は午後のみ対応となっている。毎月季節を感じて頂けるような変わり湯を実施している。	週2回以上の入浴を行い、利用者の状態に応じて時間や回数について配慮している。浴槽は温かみを感じるひのき風呂であり、季節ごとにしょうぶ湯やゆず湯など入浴を楽しめる取り組みをしている。入浴を拒否する利用者には、時間を変更したり、無理強いせずタイミングをはかって支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息、体調に応じて休まれる方もいられる。また日中の活動時間を増やし夜間の良眠につなげている。夜間巡回時、居室の温度や明かりなどを把握したり、眠れない方には飲物を飲んで頂き、話を傾聴するなど安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の状態変化の確認に努め、服薬後の確認を行い、配薬時に事故のないよう努めている。個人ファイルの内服薬の内容説明書を参考にしながら服薬の支援と症状の変化の把握に努めている。また、お薬の変更があった時は、記録に残し、その日のミーティングで伝えている。必要に応じて看護師へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに、個々の趣味や生活歴を活かした役割がある。今年度は、新型コロナ感染対応の為、外出や歌うつどい、サークル活動、映画鑑賞、託児所の子供たちとの交流、アクティビティケア等、ボランティアの訪問は中止しているがマスク作りや習字、プランター菜園での作業などの機会等を設け気分転換の場を提供している。毎朝バルコニーのお花や野菜を見て、収穫する喜びや、花に触れる機会を持ち潤いのある生活が出来るよう努めている。今年度より月一度、一家族よりお花を届けられて、ユニット内でご利用者にお花を生けて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナ感染対応により、普段の買い物や、ご家族との会食も中止しており、職員とご利用者だけで過ごせる法人所有の林間施設への外出。敷地内や、屋上、バルコニーへの散歩をして頂いている。	外出は地域で生活する上で大切な支援と考えて取り組んできたが、現在はコロナ禍による制限があり、これまでの取り組みを中止せざるを得ない状況となっている。その中でも新たな取り組みを模索しており、複合施設にあるパンの売店に買いに行ったり、施設の広い庭と駐車場でスタンプラリーを行い楽しむなど工夫している。また、法人が所有している林間施設へ外出し、リフレッシュすることができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品や金銭管理についてはご家族に十分説明し自己責任としており、実際に所持されている方もいる。必要時は施設で立替金を用意し個人購入の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご自宅に、電話をしたいと希望される方もいるのでその都度電話を使用して頂いている。他者がいることに気を使われる方には、子機を使用するなど思いに配慮し通話して頂いている。また、ご自分の携帯電話を所持して使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間ではご利用者の意見を聞きながら季節感を取り入れた装飾や、花などを置くとともに、魚など生き物を飼うことで心安らぎながら過ごせるように努めている。エレベーター前や玄関には季節に合った装飾をするとともに毎月の予定を掲示し、気持ちよく季節を感じていただけるようにしている。バルコニーは日中開放し、いつでも外に出れる環境をつくっている。脱衣場と洗濯場が兼用になっている為、パーテーションの使用や、備品の整理を行い、快適な空間づくりに努めている。	建物は広く明るい作りで、防臭や温度湿度の管理に注意が行き届いている。感染症対策として掃除を徹底し消毒、換気に努めている。窓辺には花や観葉植物が並び、利用者の目を楽しませている。エレベーターホールには家族の協力により季節感のある室札が飾られている。ゆったりと過ごせる畳の小上がりやソファが配置され、利用者は自分の過ごしたい場所でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、畳など好きところで新聞やテレビを見たり、なじみの方とお話等して過ごせるように支援している。天気の良い日バルコニーも活用している。また、自由にユニット間やバルコニーなどに行き来出来るように職員間でも、連携を行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の大切さや安心感などを入居時にご家族に説明し、ご本人に合った空間づくりに協力してもらっている。テレビや冷蔵庫、好きな絵や写真など思い思いの物を持参されている。居室の窓から見える場所に、花や緑を置き、眺めにも配慮し居心地良く過ごせるよう努めている。	個々の状態に合わせて落ち着いて過ごせる空間にしている。家族の協力を得て自宅の部屋のような家具の配置にしたり、家族の思い出の写真、本人の作品などが飾られている。居室には全室に内鍵があり、プライバシーが守られる環境にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレにのれんをかけたり、表示をすることで自立支援している。準備が自分で出来るように、食器棚に入っているものや、居室のタンスに入っている物を明記したりしてわかりやすく動けるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				